

## 平成27年度 第3回大阪府立吹田高等学校学校協議会 記録

○日 時 平成28年3月7日(月)午後7時開始

○場 所 吹田高等学校会議室(本館2F)

○テーマ ~平成27年度の総括と平成28年度に向けて~  
・平成27年度学校経営計画の達成状況と自己評価について  
・平成28年度学校経営計画(素案)について

○出席者(敬称略、委員は50音順)

会長 白井 孝雄(大阪薫英女学院中学校・高等学校校長)

委員 大江 慶博(吹田市立第二中学校校長)

清川 香織(本校PTA会長)

土井 実(鳳志会副会長)

校長 浅田 明子

○事務局

手島 肇(教頭)、植木 邦博(事務長)、磯原 健志(首席)、大西 英之(首席)

### ■委員から出された主な意見等

- 年間遅刻件数の自己評価については、延べ件数が3,208件と2月末で既に目標値を上回っているとのことですが、同じ者の繰り返しということもあるので重複を除く数字は把握していますか。総件数よりも、繰り返し遅刻する者の占める割合が少なくなれば、どの生徒にも意識改革ができたということ。大変だと思うが、ご指導いただきたい。
- 遅刻者について男女差はあるのか。スカートの指導は女子が多いが、頭髪指導や遅刻指導については男女であまり顕著な違いはどうか。
- 基本的な生活習慣の確立の項目の中で「もう一度指導の経緯をしっかりと確認し、生徒への情報発信を的確に行う」とあるが、先生方が替わられる中で、吹田高校が遅刻指導、頭髪指導に何故こだわっているのか若手の先生方が十分理解しておらず、大事にしないといけないところがぼけてくるといったことがあるのでは。人が替わる度に課題になるのはそのことで世代交代の一番の弱点。高等学校でも同じような課題を持っていると勉強になった。
- 遅刻者数については、2500人は難しい数字ということが見えてきた。例えば、学力は年度により上がり下がりがあるので、全国学力学習状況調査といって、学力と学習状況をクロス集計させて成果をみるという調査がある。例えば、基本的な生活習慣と進学クラスのカリキュラムとその結果をクロス集計して見ていくことができれば、毎年、子ども達が変わっても、吹田高校の指導体制がこう結果に結びついているということがわかる。
- 中学校では大きな問題として「いじめ」の問題がある。「いじめ」はない方がもちろんいいが、ある一定時期には、「見ていないから見つけられていないのでは。しっかり見つけなさい」といったことがあったが、いじめの数が多い方が評価されるということで、現在は「沢

山見つけてそれがどれだけ解消されているか」という解消率を指標に用いている。視点をどこにもっていくかで随分数字が変わってくる。

- 指導内容と結果が必ずしも直結しているわけではなく、どうしても学校は指導の結果にこだわる部分があるが、一方で指導の結果はなかなか数値に表すことができない。例えば、生徒にどれだけ浸透したのかといったことを成果指標にあげると数値には表すことができない。数値目標の根拠は非常に難しい。
- 関関同立・産近甲龍レベルの延べ合格者について、この3年間で、昨年ゼロの状況から一気に延べ合格者10人とあるが、OBとして短期間に変革されたことは誇りに思う。生徒にとっても、同期生でこういう生徒がでてきたということは卒業してからも自信になる。次に入学してくる生徒にとっても、やればできるといい目標になる。単発で終わらず、どんどん引き継いでいけるよう、気を引き締めていただき、躍進をお願いする。
- 進学クラスについて、関関同立・産近甲龍20人以上という目標をたてて、結果が10人ということで辛口の評価をしているが、ゼロからの出発ということを考えると、もっと評価してもよいのでは。
- 数値目標を掲げるときに一定到達可能な数値目標であることが必要。△が並んでくるとやる気をそぐ部分があるが、そういう意味ではいい評価であった。特に進学クラスの成果が出たというのは、皆に元気を与えるし、生徒の自信にもなる。とりわけ先生方にこういう指導で行けば、成果があがると大きな自信になるのでは。
- 今日の夕刊に7月施行で府立学校全てに自転車通学の条件として損害賠償保険への加入を求めるとあった。今後、府全体で法制化され、強制化という形になれば、指導もしやすくなるのでは。引き続き、指導をよろしく願います。
- 自転車は基本的なマナーを教えることがないまま乗っており、シュミレーション体験できることは大事。来年もやってもらえるのであれば子どもたちのためになる。来年3年生になる生徒は経験していないので、1年、2年、3年と経験できる機会を持てればいい。
- ネットトラブル防止のための講演会について、肯定率9割超はすごいこと。ネットトラブルについては生徒が身につまされるような話をしてくれる講師があまりいない中で、この肯定率は結構高いと思う。
- ネットトラブル防止について、1年生を対象に講習会を実施したとのことだが、1年に限らず全学年で取り組んでもらいたい。また、保護者に向けた取り組みもして欲しい。